

# 多自然川づくりの推進（1／4）

## ■ 多自然川づくりとは



田手川(吉野ヶ里公園付近)

河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全・創出するために、河川管理を行うことです。

調査・計画・設計・施工・維持・管理  
の各段階で一貫した取組

## ■ 川らしい姿とは・・・(求められる&目標とする川の姿とは)

- 流路の蛇行や川幅の変化、瀬・淵などの変化に富んだ形状／水の音／流れの変化
- 魚類や昆虫、鳥、植物など、河川域における動植物の多様性
- 川とその背後を含めた景観の調和・美しさ／潤いと安らぎ、親しみやすさ／賑わい

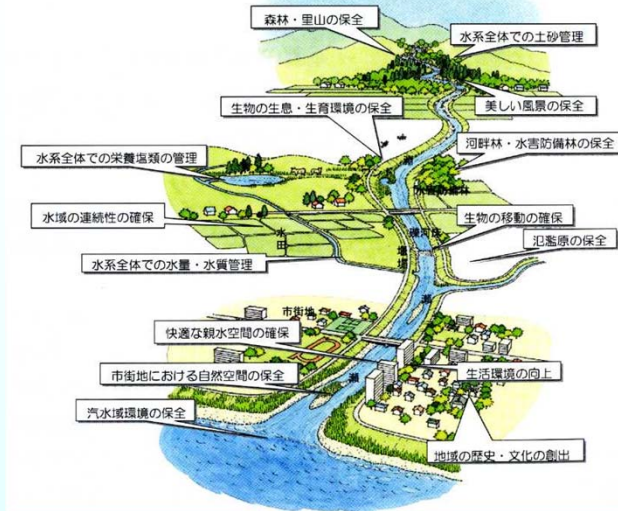
# 多自然川づくりの推進 (2/4)

## ■ 多自然川づくりの方向性

### 1) 河川全体の自然の営みを尊重



● 上流から下流まで、河川全体を通じて自然環境の保全・整備のビジョン(一貫した計画)を持った川づくりを進めます。



### 2) 地域の暮らし・歴史・文化との調和



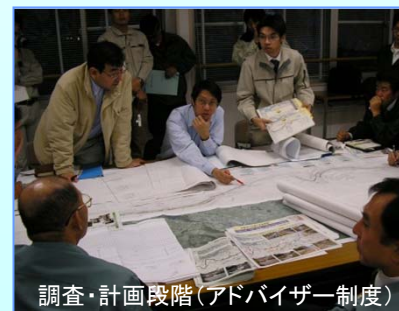
松原川(佐嘉神社付近)



浜川(肥前浜宿付近)

- 川の姿は、長い年月を経た自然の営みと人の暮らしや働き掛けによって形成されてきたものです。
- 川づくりにあたっては、地域の暮らしや歴史・文化等との調和を図ることが重要です。

### 3) 河川管理全般での留意



調査・計画段階(アドバイザー制度)



維持・管理段階(住民参加の河川清掃)

- 良好な河川環境の創造は、河川工事の完了により終了するものではありません。
- 調査・計画の段階を含め、工事後の維持・管理など、河川管理全般での留意が重要です。

# 多自然川づくりの推進（3/4）

## ■ 多自然川づくり基本指針(1/2)

### キーワードは《 自然のダイナミズム／復元力 》の活用

- 流水の作用(浸食・運搬・堆積)により、瀬・淵・蛇行などの変化に富んだ川らしい姿を形成する働き
- 川の流況(流量・流速)に応じて滞筋等を復元する働き(～人口河岸の前に自然河岸を形成～)

#### ① 平面計画



- 現況法線の尊重  
現況が良好な自然環境を形成している場合は、河道の法線は、その位置を極力変更しない。

- ・背後地の土地利用／保全対象等を考慮して計画
- ・ショートカットは、流速・土砂移動バランスに影響

#### ② 縦断計画



- 現況勾配の尊重  
過度の河床掘削による縦断整形は、河床材料の改変など、河川環境の激変に繋がるため避ける

- ・河床の安定性と上下流間の生物移動の連続性を確保
- ・転石等の自然落差／早瀬・淵等の自然地形を保全

#### ③ 横断計画



- 河床幅は十分確保する  
川らしさを作る土砂の移動や河床変動が生じる場を確保し、良好な自然環境を形成させる。

- ・植生／親水性等から緩傾斜河岸が望ましい場合が多い
- ・土地制約等から河床幅が狭くなりすぎる場合は、急傾斜河岸の前面に自然の低水河岸を復元

#### ④ 護岸計画



- 護岸はできるだけやわらかく  
安全性が保たれる範囲で、護岸をしない又は植生河岸に近づける工夫を行うことが重要。  
(隠し護岸や覆土等も検討)

- ・河岸・水際部について、縦横断的に自然な変化をもたせる
- ・寄せ土や捨て石等で植生の基盤となる土砂堆積を確保

# 多自然川づくりの推進 (4/4)

## ■ 多自然川づくり基本指針(2/2)

### キーワードは《 自然のダイナミズム／復元力 》の活用

- 流水の作用(浸食・運搬・堆積)により、瀬・淵・蛇行などの変化に富んだ川らしい姿を形成する働き
- 川の流況(流量・流速)に応じて滞筋等を復元する働き(～人口河岸の前に自然河岸を形成～)

#### ⑤水面・河床の連続性の確保



- 生物の縦横断方向の移動を確保  
水面・河床の繋がりを保つことで、生態系の連続性を確保  
(エコロジカル・ネットワーク)

- ・堰・落差工等へ魚道の設置
- ・本川と支川水路等との水面・河床の連続性を確保

#### ⑥山付き部・河畔林の保全



- 緑空間の保全  
水と緑の空間は自然環境、親水性、良好な景観の創造にとって貴重な財産  
(憩いと安らぎ)

- ・保全のため片岸へ引堤など、法線計画での配慮
- ・治水上の支障がない範囲で極力保全(植樹基準)

#### ⑦地域の歴史・文化、周辺環境との調和



- 地域風土との調和  
地域の風土・歴史・文化を踏まえ、周辺景観とも調和した計画・工法選定を行う  
(佐賀らしさ)

- ・郷土誌調査／住民意見の反映／伝統工法の採用
- ・佐賀城下の堀割、クリーク、田園風景等との調和

#### ⑧現存する環境資源の保全



- 調査・計画段階から保全を考慮  
ヨシ原等の氾濫原湿地、礫河原、干潟、瀬、淵、ワンド等は貴重な環境資源であり極力保全する

- ・保全にあたっては平面・縦横断計画での考慮が必要
- ・改修後の土砂移動・流速の変化等を考慮して計画